

これからの新しい日本語学校の話をしてしよう

大会委員長 惟任将彦（大阪 YMCA 学院）

本年4月1日より、「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」が施行されました。これに伴い、各校においては教育理念や到達目標、評価方法、および教育・学習内容等の見直しを進められていることと存じますが、認定されることがゴールではなく、その先を見据えて、自分たちの教育、および学校全体を見直し、リニューアルすることが大事なのではないのでしょうか。

そこで、本大会のテーマを「これからの新しい日本語学校の話をしてしよう」といたしました。大会一日目の午前には、2本の講演を予定しております。まず、文部科学省日本語教育課から認定日本語教育機関と登録日本語教員に関する現状についてお話しいたします。その後、出入国在留管理庁政策課から技能実習制度、及び特定技能制度をめぐる状況と育成就労制度の創設についてお話しいたします。午後には、基調講演とパネルディスカッションを予定しております。基調講演は、京都大学から奥村好美先生をお招きし、『『逆向き設計』論に基づくカリキュラム設計ーより良い教育評価を目指してー』と題し、「日本語教育の参照枠」（以下「参照枠」）でも重要なポイントとなっている評価について、「逆向き設計」の理論とともにお話しいたします。それを踏まえ、パネルディスカッションでは、「教育理念」「到達目標」「評価」「教室活動」をいかに一本の線でつなぐかという観点から、教育の質の向上、および学校評価について登壇される先生方に議論していただきます。

二日目の午前には、3つの分科会を予定しております。1つ目は、「参照枠」に基づく教育実践、及び成績評価をいかに大学入試要件に接続していくかという「大学との連携」に関するもので、日本語学校側からの問題提起に関してフロアとのディスカッションを行うプログラムとなります。2つ目は、「認定日本語教育機関日本語教育課程編成のための指針」においても、カリキュラムに盛り込むべき項目として「学習を自ら管理する能力」とありますが、この自律性に関わる「学習者オートノミー」について、大阪大学の義永美央子先生をお招きし、「教師オートノミー」とともに考えるワークショップを実施していただきます。そして、3つ目は、日振協が文部科学省から委託されている「参照枠」を活用した教育モデル開発・普及事業での昨年度の成果物を使用したワークショップを行います。その後、午後の昼休憩の時間には、6件のポスター発表・デモンストレーション、14時から、8件の自由研究発表と6件のトーキングショップを予定しており、いずれも質量ともに大変充実したものとなっております。

今年度は実に5年ぶりの対面開催となります。本大会が参加者のみなさまにとって、旧交を温め、再会の喜びを分かち合う機会となるとともに、新たな出会いが生まれ、これからの日本語学校教育について語り合う場となれば、それに勝る喜びはございません。